

►► HISTORY

古代	江戸時代	慶応3 (1867)年	慶応4 (1868)年 7月15日	明治27 (1894)年	明治30 (1897)年	明治36 (1903)年	昭和4 (1929)年	昭和9 (1934)年
「日本書記」に 住吉津、難波津 の記述	北前船の 活躍	川口運上所 (税関の前身) 設置	大阪港開港	大阪市章が 「みおつくし」 に決定	天保山で 大阪築港 起工式 挙行	築港大桟橋 完成	築港工事 完了	室戸台風来襲 (港湾施設に 甚大な被害)



明治初期の川口の波止場



1897(明治30)年大阪築港起工式



昭和4年に開通した臨港鉄道

昭和47 (1972)年	昭和49 (1974)年	昭和52 (1977)年	昭和57 (1982)年	昭和61 (1986)年	昭和62 (1987)年	平成2 (1990)年
舞洲造成 開始	港大橋 完成	南港ポートタウン まちびらき	舞洲完成	第1・第2突堤 改修工事完了	天保山岸壁 改修工事完了	天保山 ハーバービレッジ オープン



昭和60年の南港ポートタウン様子



昭和61年の第1・第2突堤



昭和63年改修まもない天保山岸壁

水路標識「みおつくし」

「難波江の 葦のかりねの ひとよゆゑ みをつくしてや 恋ひわ
たるべき」(皇嘉門院別当千載集より)。みおつくし(瀬標)と
は、古歌にも詠まれたように、その昔難波江の浅瀬に立てられ
ていた水路標識です。大阪の繁栄は、港の充実と切っても切り離せません。人々に親しまれ、港にもゆかりの深い「みおつ
くし」が、明治27(1894)年4月、大阪市の市章となりました。





昭和12年大阪経済の成長を象徴する
大阪鉄工所桜島造船所の進水式



昭和14年につくられた
大阪港仲仕寄場



昭和33年南港埋立事業開始

昭和12
(1937)年

昭和14
(1939)年

昭和20
(1945)年

昭和25
(1950)年

昭和33
(1958)年

昭和42
(1967)年

昭和44
(1969)年

昭和46
(1971)年

戦前の大阪港の
最盛期
入港隻数 22万隻
(12年)

取扱貨物量
3126万トン
(全国第1位)

第2次世界
大戦終結
(壊滅的な被害)

ジェーン台風
による被害

南港(1048ha)
造成開始

大阪港開港
100年

コンテナ埠頭
第1号岸壁
完成

大阪南港
フェリー埠頭
第1船就航



昭和20年空襲下の大阪港



昭和42年の大阪港

平成13
(2001)年

平成14
(2002)年

平成16
(2004)年

平成17
(2005)年

平成20
(2008)年

平成21
(2009)年

平成22
(2010)年

平成29
(2017)年

ユニバーサル・
スタジオ・
ジャパン®
オープン

夢洲コンテナ
ターミナル
(C10、11)
供用開始

大阪港が
神戸港とともに
阪神港として
「スーパー中枢港湾」
に指定

大阪港及び
神戸港が
「指定特定重要
港湾」に指定

大阪南港
コスモフェリー
ターミナル
完成

夢咲トンネル
開通

大阪港及び神戸港
が阪神港として
「国際コンテナ
戦略港湾」に選定

**大阪港開港
150年**

「市民の港 大阪港一五〇年の歩み -大阪港は市民のたからもの-」

森 隆行著

監修 公益社団法人大阪港振興協会 大阪港埠頭株式会社

大阪港開港150年を記念して、度重なる苦難を乗り越えながら、市民とともに発展し、商都大阪を支えてきた大阪港の150年の歩みを振り返る「市民の港 大阪港一五〇年の歩み -大阪港は市民のたからもの-」が発刊されました。(P73参照)

